

## 『東日本大震災復興フォーラム in けせん』に参加して

青森市薬剤師会 川村 幸子

平成30年1月7日～8日に岩手県大船渡市にて、上記フォーラムが開催された。参加するにあたり本フォーラムにて、「思い」「感情」を中心に・・・とのことで、講演依頼をいただいた。

現地の薬剤師の活動や災害派遣薬剤師ボランティアとしての活動（以後ボランティアとする）など、今までの「活動内容」については発災後から現在も、さまざまな形で講演・研修・伝達がなされている。しかしながら活動を通してうまれた「思い」や「感情」については、これまであまり触れられる機会が少なかったのではないだろうか。そう思う反面、私という一個人が感じたことを皆に伝えることが、どの位今後の皆さまのお役に立てるのだろうか？思いは人それぞれで、内容に対して不快な思いをしたり、違和感を覚えたりする人もいないのだろうか？という漠然とした不安もあった。しかし、私に打診があったことを嬉しく思うこととし、微力ながらもお受けした。ボランティアとして当時感じたことやそれからの意識の変化など、上手く伝えられたかはわからないが、自分なりに精一杯発表した。

当時現地で活動できたからこそ、『災害』は今も非常に身近な存在だと感じている。震災から7年たち、自分を取り巻く環境も変化した。今後災害が発生したら個人として、企業として、組織として、どう考えどう行動することがベストか・・・今回のフォーラムで改めて確認することができたように思う。7年前の辛さや悲しみ、精一杯の活動などを未来に繋ぎ、活用することが私たち経験者の使命となるのではないか。そう心に刻んだフォーラムだった。

人間は忘れる生き物だ。しかし忘れることを防ぐこともできる。7年前は過ぎてしまった『過去』だが、過去があるからこそ今があり、未来がある。これからも未来のために自分なりに活動・協力していきたいと思う。

## 東日本大震災復興フォーラム in けせん」に参加してみて

弘前薬剤師会 佐々木克典

「東日本大震災から7年、これまでの歩みを振り返り、新たな一步を踏み出すために」というテーマでフォーラムが開催されました。

今まで東日本大震災に関するフォーラムが多々開催され、私はその多くに参加してきましたが、今回初めて開業医の先生のお話しが聞けた事が非常に良かったと思います。今までは地域の医療体制構築やDMATのようなチームでの医療にフォーカスが当たっていましたが、多くの医師が被災して医師会が機能しなくなってしまった当時、開業医として医療体制が整わない内から、個人で避難所に訪問したり、DMATが入らない所に行ったりと、アクティブに活動していた事を具体的に聞く事が出来て、非常に感銘を受けました。

私は震災後、年に1～2回は現地に行っていますが、毎回行く度に大船渡市が変わって行く姿を見て元気を頂いております。今ではここが被災地なのか？と思えるくらい街が出来てきており、活気もある街に感じられます。しかし陸前高田市は盛土の高さが増すのは分かりますが、まだまだ復興が進んでいないと感じられます。陸前高田市も一日でも早く活気のある街になる事を祈るばかりです。

大船渡市では医療体制も整った感じに思えますが、陸前高田市についてはまだ医療体制が十分ではないと感じられています。今後も何かお手伝い出来る事があれば、出来る限りのサポートをしていきたい！と考えています。

# 東日本大震災復興フォーラム in けせん に参加して

## ～当時学生だった私が感じた薬剤師の活躍～

青森市薬剤師会 尾崎智子

平成30年1月7日（土）～8日（日）の2日間にわたり岩手県大船渡において、「東日本大震災復興フォーラム in けせん」が開催されました。あの震災から今年で7年の歳月が経過しました。ニュースなどで取り上げられる事も少なくなり、復興は進んでいるように思えますが、実際の街は瓦礫こそなくなったものの海沿いは何もない更地が広がり、まだ取り壊されずにいる建物も残っており、あの震災による被害の大きさを痛感させられました。

東日本復興フォーラム1日目は、自身も被災者でありながら地域住民のために奮闘した地元の医師・薬剤師、また現地外からボランティアとして入った薬剤師の経験や思いを聞く事ができました。家族の安否も確認できていない状態で、避難所の人たちの必要な薬を一人ずつ確認していく途方もない作業。服用している薬が分かってどこに連絡をすればよいのか、どこの病院・薬局は機能しているのか、現状を把握するすべもない中での奮闘や葛藤。自然と涙がこぼれました。

また2日目は、今もなお精神的ストレスを抱える被災者とのこれからの向き合い方や災害時のBCPの考え方など、この震災を糧に今後起こりうる災害への心構えを学ばせていただきました。

今回のフォーラムの参加者は地元の医療関係者や当時ボランティアとして参加した薬剤師がほとんどでしたが、私は震災当時は学生で、もちろんボランティアとしての経験ありません。なんの知識も経験もない私ですが、経験していないからこそこのような講演を聞いて本当に良かったと思っています。災害時各地から大量に送られてくるOTCの薬効ごとの仕分け、限られた医療用医薬品を多くの人に提供するためのスキル、十分な食事や水分摂取ができていない人への的確な服薬支援、すべて日頃の業務の中で学び知識を増やしていかなければならない事です。震災を経験していない世代にこそ、このような講演をもっと聞いてほしいと思いました。

地震大国であるこの国で再びあのような大きな地震が起こらないとも限りません。あの震災を風化させず、“その時”薬剤師として十分な職能を発揮できるよう意識しながら日々を過ごそうと思います。

最後にこのようなフォーラムを開催していただいた岩手県薬剤師会・気仙薬剤師会の皆様に感謝申し上げますと共に、復興支援に尽力されている皆様に心から敬意を表します。



発表者の川村幸子先生



震災当時の活動状況が貼られたポスター



奇跡の一本松